

ブロック別の動向

前月と比べたDI値の動き



北海道

北海道は、悪化。製造業では、仕入価格高騰に原材料不足が重なり、印刷業や鉄鋼業で売上・採算が悪化した。卸売業では、小売業やサービス業からの引き合いが減少した飲食料品関係を中心に売上・採算が悪化した。建築材料卸売業の事業者からは、原材料価格の値上げが依然続いているのに加えて、中東情勢の悪化から今後の不透明感が増し、企業努力だけでは業績の改善が難しい、という声が聞かれた。



東北

東北は、改善。製造業では、雪害の復旧需要で木材・建材関連の引き合いが増え、業況が改善した。一部の事業者からは、原材料価格の上昇や一部供給制約により、採算が圧迫されている、という声が聞かれた。卸売業では、暖冬で桜の開花が平年より早まり、花見関連需要の先取りで食料・飲料卸売業の売上・採算が改善した。事業者からは、桜など春を感じられる和菓子などの売れ行きが好調である、という声が聞かれた。



北陸信越

北陸信越は、悪化。サービス業では、インバウンドの冬季需要が落ち着いたことで、来店客数の減少につながり、売上・採算が悪化した。建設業では、大雪からの雪解けが早く、建築・土木工事の着手が例年より前倒しで進み、売上・採算が改善した。一方で、一部資材の品不足や納期の長期化が見られ、工程調整や原価管理が難しくなっている、という声が聞かれた。



関東

関東は、悪化。建設業では、中東情勢の悪化により建築資材の納期延期や出荷遅れが生じ、業績が悪化した。小売業では、長引く物価高により消費者の買い控えが生じており、百貨店やスーパーなどで売上・採算が悪化した。食品販売店からは、労務コストや資材コスト、燃料費の高騰など、仕入価格の上昇分を販売価格に十分に転嫁できておらず、採算が悪化している、という声が聞かれた。



東海

東海は、悪化。建設業では、公共事業の入札が減少し、売上・採算が悪化した。製造業では、価格転嫁を背景に売上が増加したが、中東情勢の悪化により、原材料・燃料費の高騰を受け、採算は悪化した。繊維関係やプラスチック関係の事業者からは、原料のナフサの値上げと欠品が多発しており、強い危機感を持っている、という声が聞かれた。



関西

関西は、ほぼ横ばい。建設業では、資材価格の高騰および受注環境の悪化により、売上・採算が悪化した。小売業では、進級進学や入社に向けた服飾品などの支出が下支えとなり、百貨店を中心に売上・採算が改善した。百貨店からは、外商の販売は好調な一方、消費者の節約志向の高まりを受け、今後の入店客数の見通しは厳しい状況である、との声が聞かれた。